

(様式2)

学校関係者評価報告書

愛媛県立宇和島南中等教育学校
学校番号 47

評価実施日		令和6年2月26日(金)	
委員	氏名	所属等	備考
	是澤 祐二	学校評議員(学識経験者)	
	伊勢元芳樹	学校評議員(JR宇和島駅駅長)	
	松為 教輔	学校評議員(名門サカイ株式会社代表取締役社長)	
	武部 洋安	学校評議員(下灘漁業組合代表理事組合長)	
	小倉 恭信	学校評議員(宇和島警察署 交通課長)	
	土居 道德	学校関係者評価委員(学識経験者)	
	三浦 克文	学校関係者評価委員(宇和島市立明倫小学校校長)	
	田中 多紀	学校関係者評価委員(宇和島ケーブルテレビ 宇和島局 編成制作部長)	
	西村 美保	学校関係者評価委員(PTA顧問)	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 今年度の評価等について</p> <p>(1) 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none">・基礎、基本の確実な定着が図られている。・「分かりやすく充実した授業」に努めていることがよく分かる。生徒からの評価も良好である。取組を継続してほしい。・皆勤率45.1%とあるが、昨年5月に新型コロナウイルスが第5類に変わったが、何か影響はあるのか。また、不登校の生徒は増加したか。・課題研究活動が充実していると感じる。プレゼンテーションやディスカッションなど、素晴らしいスキルを身に付けている生徒が多いことに感心している。「普段の学習だけじゃない！ 未来への学びがある南校！！」くらいのつもりで地域をはじめ、様々なところへどんどんアピールして、これからも継続してほしい。 <p>(2) 生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none">・生徒からの相談や保護者からの相談に教員が適切に対応していることが分かる。・問題行動の発生件数も少なく、評価も適切である。学校全体での取組を引き続き行ってほしい。・時代の変化が著しく、それに伴い指導のあり方も変わっていると思うが、指導に従わない生徒等には、外部人材の活用必要性を感じた。部活動等の指導についても、外部からの招聘が必要だと考える。 <p>(3) 進路指導</p> <ul style="list-style-type: none">・全体的に家庭学習の時間が短い。中学3年・高校1年に当たる3・4年生の学習時間が減っていることが心配である。中だるみがあるかもしれないが、家庭学習を充実させ、習慣づけるために指導を継続してほしい。子どもたちが自己の進路実現に向け、学年が進むにつれて学習が充実するような早期の取組が必要に思う。・民間企業においても、人材の不足が著しい。就職希望の生徒にも幅広い情報の提供をお願いしたい。	<ul style="list-style-type: none">・各教科の授業では学習方法についてのガイダンス機能を更に強化し、生徒の自主的な学習態度を育成する。また、毎時間の授業内容に即した課題を課すことで、学習習慣の確立を図る。・皆勤率は低下している。特別な事情はなく、学校に登校することの大切さを引き続き理解させていく。・課題研究については、生徒の興味関心に応じて、新たに医療・福祉分野の大学教授を招へいして専門性のある研究を行えるようにするとともに、他校との連携を推進して生徒のディスカッション力や発信力を更に高めていきたい。海外との交流活動の機会を広げるため、民間の非営利団体を積極的に活用していく。・学年団、生徒部、人権同和教育相談部との連携を今後も密に図り、小さな芽を見逃さずことなく指導に当たりたい。・学習時間の確保については、課題の量を増やしたりするのではなく、課題については内容を精選したい。予習・復習を行うよう促し、自主的に学習できる力を身に付けさせたい。・就職については、生徒の進路希望が実現できるよう個別対応をしている状況である。情報の提供については引き続き行っていきたい。

<p>(4) 人権・同和教育相談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は人権学習に力を入れるとともに、いじめ等の防止・早期発見に向けて様々な取組を行い、良好な評価が得られている。保護者の評価がやや低いのが気になるが、組織としての取組になっており、大変良い。 ・「今、自分たちにできること」を生徒たちが考え、積極的に活動していて、A評価ですばらしい。実践できる生徒たちが更に増えることを期待する。その一方で、「道徳・学級活動・ホームルーム活動を活用し」の項目がC評価となっている。今後は、生徒と教員の評価の差を埋めていてもらいたい。 ・配慮を必要とする生徒について、学校も多種多様な対応が求められているように感じる。しんどさを口や態度に出せる生徒もいると思うが、自分で抱え込んでしまっている生徒もいると思うので、引き続き生徒が相談しやすい環境作りをお願いしたい。 <p>(5) 健康・安全指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震発生時の危険回避行動の様子を見ると、実践的な防災避難訓練等を実施している成果が感じられる。 ・交通指導について、生徒の評価も高く、また、登校時の交差点での様子を見ても、しっかりと安全指導が行われているのが分かる。 ・交通ルールやマナーについて、日々の指導が徹底されているのが分かる。交通事故は相手があることなので、なかなか0件にするのは難しい。そのため、ヘルメットを登下校時はもちろん、私用の時にも着用する等、大きな怪我等による重傷化を防ぐための取組を引き続きお願いしたい。 <p>(6) 図書・視聴覚・情報教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書指導は小学校も取り組んでいるが、読む者、読まない者に二極化しているのと同様の傾向が見られる。本に親しませる環境を低学年の頃から育てていきたい。 ・読書指導について、「読め」と押しつけるのも違和感を感じる。幅を持たせた指導はできないものか。 ・ICTのネット環境についても小学校においても、つながりにくかったり途中で切れたりという同様の悩みがある。 <p>(7) 学校評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しっかり時間をかけて取り組んでいるのが分かる。問題点については、次年度の改善方針に適切に反映されており、改善内容も具体的で良好である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ等の防止や早期発見に向けて、アンケートや面談等を活用し、悩みや相談事に対しての迅速な対応を実施していきたい。またいじめ等の報告に関しては、担任による入力システムを周知徹底し、今後も組織で対応できるようにしていきたい。 ・生徒自身が“いじめをしない”でとどまらず、“いじめを許さない”という立場に立って行動できるよう、いじめや差別をなくしていく実践力を地域と連携した活動等への参加を促しながら取り組んでいきたい。 ・引き続き、配慮を要する生徒に対しての相談、支援について教職員で共有し、理解を深めていきたい。 ・生徒が、より主体的に活動する防災への取組を行っていきたい。 ・朝の街頭指導の充実を図り、その都度、生徒の気になる登校状況を全教職員で共有し、交通安全について注意を促したい。 ・朝の読書に学校全体で取り組んでいるように、学級活動やホームルーム活動、各教科においても図書館の積極的な利用を呼びかけ、読書案内のきっかけになるように努める。また、図書委員会で実施しているビブリオバトル等を活用し、本や読書について生徒間での気づきを促していきたい。 ・ICT機器を扱う頻度は確実に増えている。教員のスキルアップはもちろん、生徒が授業の中でICTを活用する場面を増やして生徒のICT活用力の向上を図るためにも、引き続き環境整備に努める。 ・少子化が進む中でも、子どもたちに選んでもらえるよう、今後も知恵を出し合い、地域の力をお借りしながら、生徒の活動を充実させ、魅力ある学校づくりに努める。今回の学校評議員会並びに学校関係者評価委員会でいただいた御指導・御助言を来年度の教育活動に生かしていきたい。
<p>2 説明・公表等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページに加えて、SNSも活用し、情報発信をこまめに行っている。閲覧している保護者や地域の方も多いため、引き続きホームページ等での発信をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学校について知っていただけるよう、ホームページに加え、インスタグラムも積極的に活用し、機会を逃さず地域や保護者に向けてこまめな情報発信に努めたい。

3 学校運営への提言

(業務改善)

- ・業務改善について、B評価から少しずつ進んでいることが分かる。退勤しやすい環境作りをお願いしたい。
- ・時間外労働等について、民間との違いを感じた。ICTを活用してコミュニケーションを円滑に行うなど、ICTによる業務の効率化を図ることにより、更に業務改善につながるのではないだろうか。

(県立学校再編)

- ・学校の特色を明確にしていけないと学校の存続が難しい。魅力ある学校づくり、地域の特性を生かした教育をお願いしたい。
- ・地方の人口減少が加速するなかで、現状の教育では、他の魅力ある学校や他地域からの生徒入学は難しく感じる。

(業務改善)

- ・新校開設準備にもつながることであるが、校務分掌や業務の見直し、学校行事のスリム化を図るとともに、ICTの活用、職員との面談・声掛け等を引き続き実践し、ワークライフバランスの向上につながるよう取組を強化したい。

(県立学校再編)

- ・新校開設に向けては、現在6回の準備委員会を開催したところである。総合学科・水産科の特徴を最大限に生かし、地域のニーズに対応できる学校づくりに励んでいきたい。